

#### 資料4) 家庭動物の問題行動<sup>\*</sup>を予防するために、次のことを推奨します

<sup>\*</sup>問題行動とは、飼い主またはその動物と関わる人たちが問題と感じる行動、あるいは人間社会と協調できない行動と定義します。

古くから人間と共生してきた犬や猫はいまや家庭動物と呼ばれ、家族と愛情の絆を結び、豊かな生活を共にできるすばらしい動物です。一方で、人間社会やライフスタイルは急速に変化を続けており、犬や猫は制限の多い生活環境に適応することを求められています。

家庭動物の動物福祉を守るためには、動物たちが環境に調和できるよう配慮する責務が飼い主に課せられています。「問題行動」は、このような配慮が不十分だったり不適切だったりすることで生じたり、悪化することが知られており、共に暮らす家族にも苦痛をもたらします。

問題行動の予防のために以下のようなことをお勧めいたします。

- 犬や猫は、それぞれの動物種に応じた行動パターンや欲求を持つと同時に、先天的あるいは後天的な影響を受けて個体差を示します。あらかじめ動物に関する情報、飼い主のライフスタイル、飼育後の環境などを考慮に入れた上で、動物を選択し家庭に迎え入れることは、問題行動の予防に役立ちます。
- 犬や猫の脳が柔軟な発達期に、同種動物や人間を含めた他種動物と良い関係を築く（社会化）、たくさんの物や状況に慣れる（馴化）ことは問題行動の予防に有効です。これらは、発達期にだけ実施するのではなく、以降も維持することが大切です。
- 子犬教室や子猫教室への参加は、動物の社会化や馴化の促進の場になるだけでなく、飼い主にとっても正しい情報を学ぶための最適な場や機会となり、問題行動の予防に有効です。
- 動物に対して環境に調和できるように「しつけ」や「トレーニング」を継続することは問題行動の予防に有効です。ただし、しつけの手段として体罰を用いてはいけません。正しい行動を導き、褒めることによってその行動の定着をはかる手法が有効です。
- 動物の年齢、身体状況、生活環境などの変化によって、動物に対して必要とされる配慮も変化します。「今、必要なもの」についての適切な情報を得るために動物病院で定期的に相談することは問題行動の予防に有効です。